

南三陸病院と涌谷町立町民医療センターを訪問しました (2017/3/28)

テーマ： BCP・医療機関被害・地域医療（熊本大学との共同研究：医療に及ぼす震災影響の比較研究）
場所： 南三陸町・涌谷町（宮城県）

災害科学国際研究所の児玉栄一教授（災害医学研究部門 災害感染症学分野、東北メディカルメガバンク機構地域医療支援室副室長兼務）と寺田賢二郎教授（地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野）は、熊本大学 生命科学研究部・環境社会医学部門・看護学講座前田ひとみ教授らとともに平成 28 年度共同研究助成事業「熊本地震と東日本大震災の比較分析による直下型地震時の病院被害と診療体制に関する研究」を展開しています。前田教授のグループは熊本県で被災した医療機関での現状と復興状況、それらを踏まえた今後の業務継続計画（BCP）作成に資する調査を行っています。平成 29 年 1 月にも仙台において打ち合わせを行い、3 月 28 日には熊本大学松本智晴准教授、南家貴美代助教とともに南三陸病院と涌谷町立町民医療センターを訪問しました。震災時における医療機関の被害状況とその対応、問題点など面接調査を行い、海溝型地震である東日本大震災による影響と熊本地震のそれとを比較検討を行う予定です。

沿岸部に位置し、実際に津波被害によって病院の全壊、死者・行方不明者 74 名を出した南三陸病院へは本学病院 石井正教授のご紹介で訪問し、桜田院長、佐々木三郎事務長、高橋るり子看護部長から、震災当時の状況、被災状況、復興計画をご説明いただき、病院防災マニュアルの改訂についても議論しました。病院と行政が一体となり、本格的な復興、街づくりを目指しているそうです。当研究所 災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の江川新一教授、佐々木宏之助教が現在も医療支援中です。

一方、内陸部の涌谷町町民医療福祉センターでは、青沼孝徳センター長、浅野孝典事務長、佐藤美由紀看護部長、野崎看護師から、震災時の拠点病院であった石巻赤十字病院の後方支援と医療ボランティアへの支援施設の提供の概要を教えてくださいました。青沼センター長、浅野事務長のネットワークからの自家発電機、医療用酸素などを入手できたことが病院機能維持に大いに役立ったとのことでした。



南三陸病院



涌谷町町民医療福祉センター